

To change. Enzo Mari and the “Chestnut Tree Project”

—Curated from the Keiji Nagai collection—

『変える。エンツォ・マーリと“栗の木プロジェクト”』展

—永井敬二コレクションより—



『変える。エンツォ・マーリと“栗の木プロジェクト”』展
—永井敬二コレクションより—

“To change. Enzo Mari and the “Chestnut Tree Project””
– Curated from the Keiji Nagai collection –

“栗の木プロジェクト”を植える。

なぜ無印良品で、イタリア デザイン界の巨匠、エンツォ・マーリの展覧会なのか？

2002年、無印良品ではマーリによるプロジェクト、テーブルと椅子、計19点を発表しました。以来両者の交友関係は続き、ある日マーリは、私たちにこう語りました。

「かつてデザインは、平等の名のもとに優れたスタンダードを生み出す役割を担ってきた。しかし高度成長を経て、大量の商品を売るための手段に成り下がった。私はデザイナーであることを恥じている。これから提案するのは、目先の経済ではなく、栗の木を植えその木が成長し、やがては人々がその実を味わい、木陰で憩えるような、長い目で未来へと持続するプロジェクトだ。企業はそうした視点を持つべきではないか」

私たちはこれに賛同し、ここから何ができるかを皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。本展では、1本目の栗の木を植える試みとしてエンツォ・マーリの仕事の根っこをご紹介します。そこから、ゆっくりと大きく枝葉が伸びていく姿を想像しながら。

ATELIER MUJI GINZA

Planting the “Chestnut Tree project”.

Why are we having an exhibition of the Italian design master, Enzo Mari, at MUJI?

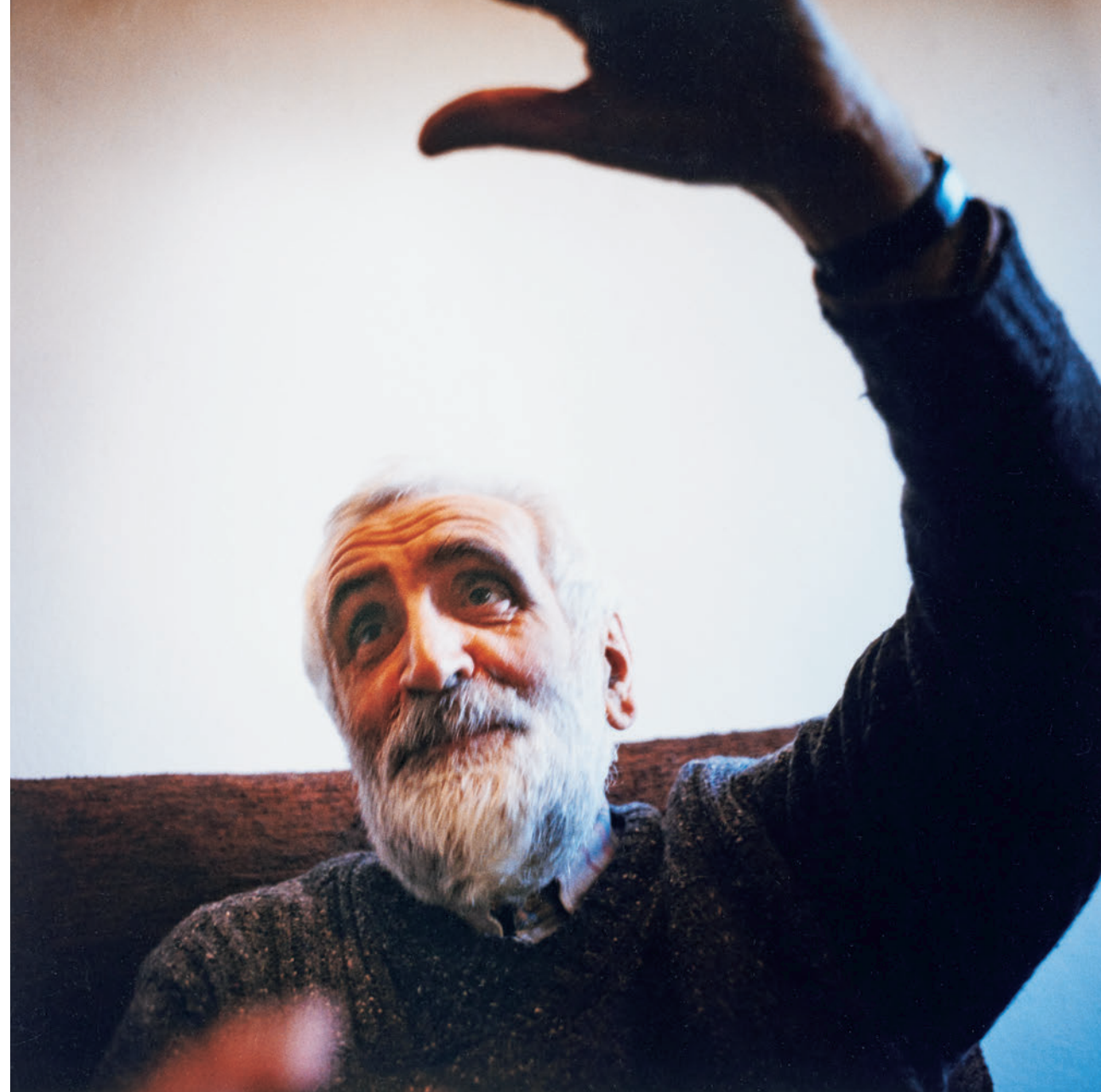
In 2002, MUJI collaborated with Mari on a project, launching a range of 19 tables and chairs altogether. Both parties have stayed in contact since then, and one day Mari explained his outlook to us:

“In the past, design played a role to invent an outstanding standard in the name of equality. However, following a period of drastic economic growth, it has now been degraded to a simple means to sell merchandise. At present I feel rather ashamed to be a designer.

Here I would like to propose a long-term project to go forward towards the future: it isn't for financial gain in the short term, but is more like planting chestnut trees to nourish people with their fruit, and to let them relax under their shade. I believe that companies should have this kind of viewpoint”.

We agree with his opinion, and would like to think about what we could do together with you all. This exhibition introduces the basis of Enzo Mari's works in order to plant the first chestnut tree. Then let us imagine this tree growing its branches and leaves from that moment.

ATELIER MUJI GINZA



エンツォ・マーリ

1932年イタリア、ノヴァーラ近郊生まれ。ミラノ、ブレラ芸術アカデミーで学び、視覚芸術に取り組んでいた50年代より、ブルーノ・ムナリの紹介でデザインを手がけ始める。50年を超えるキャリアを持ち、プロジェクト数は約1800を数える。クライアントの反発を恐れない商業主義批判と、独自のデザイン哲学、ユートピアを語り続けることで社会に影響を与えてきた。

Enzo Mari

Born near Novara, Italy in 1932. He studied at the Brera academy in Milan and was working in visual arts in the 1950s, when Bruno Munari introduced him to design. He accomplished around 1800 projects over his 50-year career. He has always been very bold, saying what is on his mind, and in doing so, has influenced our society: by talking critically about commercialism with no fear of disagreement with his clients, and explaining his own design philosophy or his idea of Utopia.

「エンツォ・マーリが大切にする5つの考え」

50年以上にわたって約1800ものプロジェクトを手がけた、イタリアデザインのマエストロ、エンツォ・マーリ。

デザインを知り尽くしたマエストロという、私たちのイメージを裏切るかのように彼は、「デザインとは何か、私は知らない」としばしば語ってきた。それは何を意味しているのだろうか。

マーリのみならず、戦後の工業デザインを牽引してきたイタリア人たちは、「デザイン」を「プロジェクト」、「デザイナー」を「プロジェクティスタ」と呼んできた。「プロジェクト」は、毎回異なる問いに対して、最良の答え（かたち）を導くプロセスの総体だ。プロジェクトには、起業（企業）家とその社員、工場、職人、さらに売り手、と立場の異なる多くの人々が関わり合う。さらに時代が求めるマテリアル、技術、工作機械など、多様な要素が複雑にからみ合い、一つとして同じケースはない。

だからマーリは経験知によってプロジェクトを片付けることはなく、毎回ゼロから仕事に取り組んだ。そこに「デザインとは何か」をひとことで語らない理由がある。

一方で、その仕事には一貫した理念がある。ユートピアという「どこにもない」理想へ向かおうという理念だ。

マーリは「変化をもたらせなければ、優れたプロジェクトではない」と語ってきた。「変える」のはモノの「かたち」ではなく、ユートピアへ近づくための社会、経済、生産システムへの変化である。そのために、マーリは真摯に、時に声を荒らげ対話してきた。私たちに語った「栗の木」の話もその一つだ。

本展の会場には、「かたち」はあるが、私たちはその裏にあるユートピアの理想までは読み取れない。しかし「かたち」は私たちの感覚を揺さぶり、その奥へと入り込む手がかり、入口になる。

会場ではマーリの考え（プロジェクト）を5つのカテゴリーに分類した。

- 1 スタンダード／日用品のユートピア
- 2 蝶番／部品をどのように組み立てる？
- 3 アーキタイプ（元型）／根を張って枝葉を伸ばす
- 4 美しさ／かたちの後ろに隠されているもの
- 5 遊び／私たちのプロジェクトの原点

マーリはプロジェクトを通じて何を伝えようとしているのか？ それを知る「手がかり」としてブックレットとともに展示をご覧いただければと思う。

「栗の木プロジェクト」はまず、好奇心からはじまる。

1

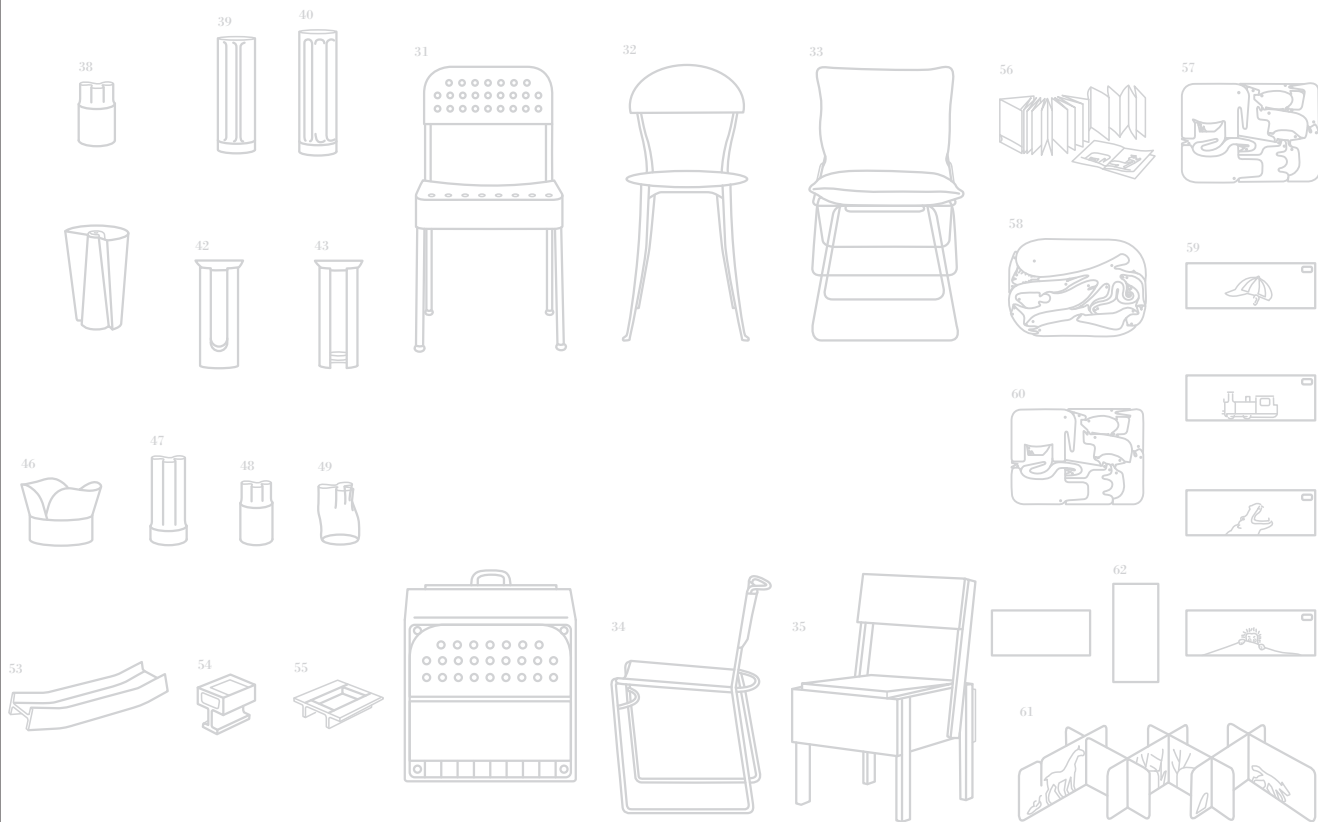
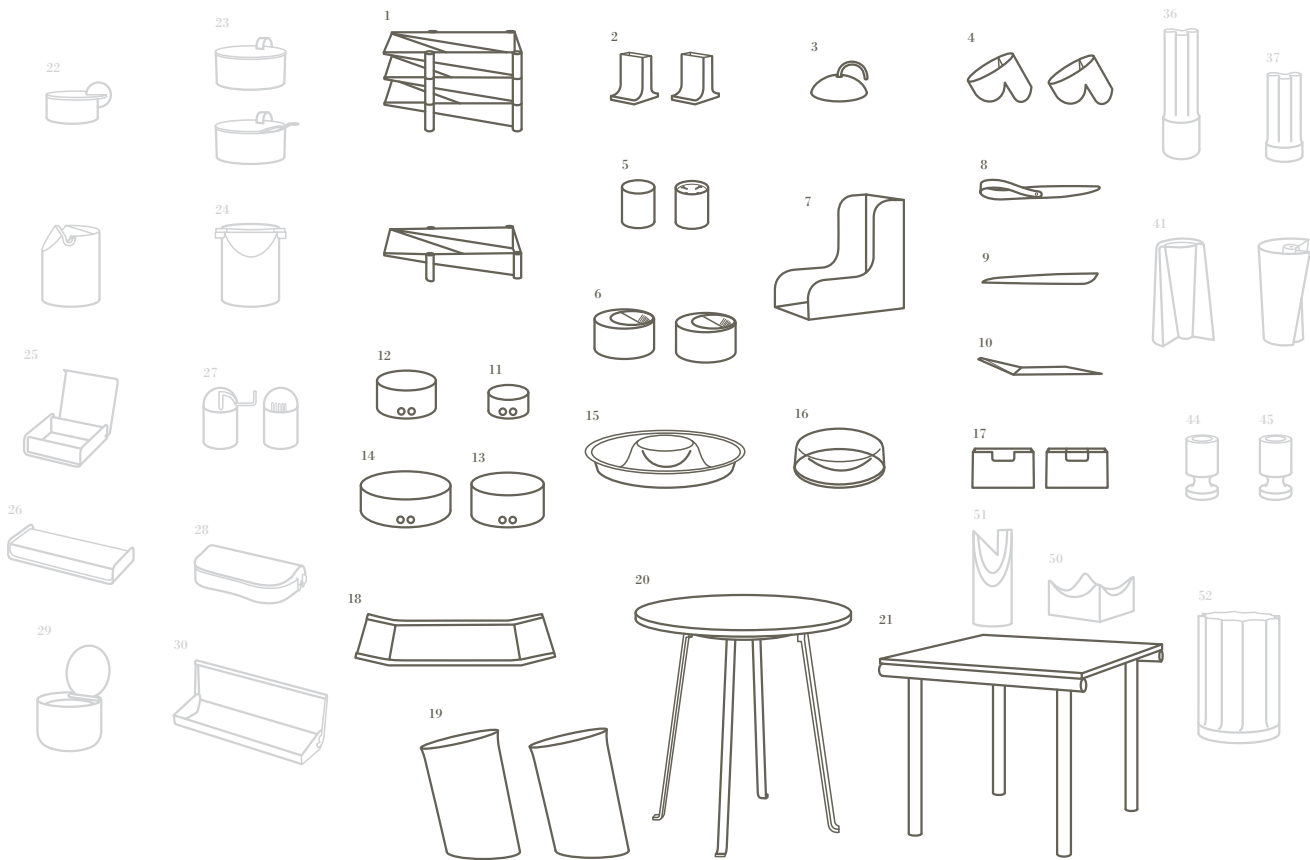
スタンダード／日用品のユートピア
Standard / Utopia of everyday things

標準〈standard〉の語源は、古フランス語の旗〈estandard〉。
優れたスタンダードは、デザインが掲げる旗だった。

「スタンダード」は「標準」という意味で理解されている。
しかしマーリは「その語源はフランス語の「旗〈étendard〉」にある」*と語る。たしかに〈standard〉を原語で調べれば、旗やパナーの意味が明記されている。
「旗〈étendard〉」は、フランス革命の革命歌で、後にフランス国歌となった「ラ・マルセイエーズ」の歌詞に登場し、それはマーリにとって特別な意味を持った。なぜフランス革命とデザイン？ と首をひねりたくなるが、フランス革命が掲げた旗の一つが「平等」であることに手がかりがある。平等への渴望から引き起こされた革命が、近代デザインを誕生させることになる歴史的出来事の一つだった、というのがマーリの持論だ。持てる者がごくわずかだった時代から、多くの人々の所有を可能にした量の生産。その高く掲げた旗は、優れたスタンダードでなくてはならない、と声高に語る。

平等というユートピアはここにはない場所だという意識を（おそらく）持ちながら、それでもモノを介したユートピアを旗に掲げてきたマーリは、周囲の不理解があれば、声を荒らげ持論を説いてプロジェクトと取り組んできた。
優れたプロジェクトは変化をもたらすことができる。もう一度デザインの原点に戻って、「もの」のポテンシャルを考えてみる価値はあるのではないだろうか。

* 詳しくは、古フランス語の旗〈estandard〉が語源。



Arran アラン

No.18／Arran アラン (1961)／Tray トレイ
Stainless steel ステンレススチール／480mm×245mm×30mm
Danese ダネーゼ

Giglio ジリオ

No.08／Giglio ジリオ (1985)／Paper knife ペーパーナイフ
Polished stainless steel ステンレススチール 鏡面仕上げ／280mm×30mm
Danese ダネーゼ

工業用の標準マテリアルとシンプルな工作機械を使用し、最大の効果をいかに引き出すかは、マーリの関心事の一つである。3つのペーパーナイフ、〈ベンベキュラ〉〈アメランド〉〈ジリオ〉は、ステンレススチールをカットする、折る（または曲げる）、研磨する、のシンプルな成型で完成している。機能とともにマーリの造形美が結実した作品。

Benbecula ベンベキュラ

No.10／Benbecula ベンベキュラ (1961)／Paper knife ペーパーナイフ
Stain finish stainless steel ステンレススチール つや消し
340mm×25mm×70mm／Danese ダネーゼ

Ameland アメランド

No.09／Ameland アメランド (1962)／Paper knife ペーパーナイフ
Stain finish stainless steel ステンレススチール つや消し／220mm×20mm
Danese ダネーゼ



Sumatra スマトラ

No.01／Sumatra スマトラ (1976)／tray for correspondence 書類用トレイ
polystyrene ポリスチレン／330mm×280mm×65mm／Danese ダネーゼ



Lero レロ

No.07／Lero レロ (1965)／Magazine rack マガジンラック
ABS樹脂／300mm×200mm×300mm／Danese ダネーゼ

In attesa インアッテザー

No.19／In attesa インアッテザー (1970)／Wastepaper basket ゴミ箱
polypropylene ポリプロピレン／ ϕ 260mm×410mm／Danese ダネーゼ



Colleoni コッレオーニ

No.04／Colleoni コッレオーニ (1970)
Clip & Pencil holder クリップ入れ、ペン立て／Melamine メラミン樹脂
 ϕ 100mm×80mm／Danese ダネーゼ

Lampedusa ランペドゥーサ

No.02／Lampedusa ランペドゥーサ (1967)／pencil stand ペン立て
Urea resin ユリア樹脂／60mm×30mm×95mm／Danese ダネーゼ



Mastaba マスタバ

No.17 / Mastaba マスタバ (1974) / Pencil & paper holder ペン&メモ立て
Urea resin ユリア樹脂 / 165mm × 77mm × 95mm / Danese ダネーゼ



Tokelau トケラウ

No.03 / Tokelau トケラウ (1991) / Paperweight ペーパーウェイト
Cast iron, polyurethane 鋳鉄、ポリウレタンコーティング
φ 100mm × 65mm / Danese ダネーゼ



Hawaii ハワイ

No.05 / Hawaii ハワイ (1972)
Egg cup-candle stick エッグカップ&燭台 (一体型)
Melamine メラミン樹脂 / φ 55mm × 65mm / Danese ダネーゼ



Borneo ボルネオ

No.06 / Borneo ボルネオ (1966) / Table ash tray 卓上灰皿
Melamine メラミン樹脂 / φ 125mm × 65mm / Danese ダネーゼ



Tongareva トンガレーヴァ

No.11 / Tongareva トンガレーヴァ (1969) / Food bowl ボウル
Melamine メラミン樹脂 / φ 120mm × 60mm / Danese ダネーゼ
No.12 / Tongareva トンガレーヴァ (1969) / Food bowl ボウル
Melamine メラミン樹脂 / φ 180mm × 90mm / Danese ダネーゼ

No.13 / Tongareva トンガレーヴァ (1969) / Food bowl ボウル
Melamine メラミン樹脂 / φ 240mm × 120mm / Danese ダネーゼ
No.14 / Tongareva トンガレーヴァ (1969) / Food bowl ボウル
Melamine メラミン樹脂 / φ 330mm × 90mm / Danese ダネーゼ



Beech table

ブナ材テーブル・正方形・メラミン天板

No.21 / Beech table ブナ材テーブル・正方形・メラミン天板 (2003)
Table テーブル / 850mm × 850mm, 850mm × 1800mm / MUJI 無印良品



Steel table

スチールテーブル・丸・メラミン天板

No.20 / Steel table スチールテーブル・丸・メラミン天板 (2003)
Table テーブル / φ 690mm × 720mm / MUJI 無印良品

Adal アダル

No.16 / Adal アダル (1968) / Fruit bowl フルーツボール

Heat-moulded PS 熱成形PS / ϕ 295mm $\times$ 90mm / Danese ダネーゼ

Atollo アトッロ

No.15 / Atollo アトッロ (1965) / Fruit bowl フルーツボール

Heat-moulded PS 熱成形PS / ϕ 450mm $\times$ 100mm / Danese ダネーゼ

マーリは〈ダネーゼ〉のために、PVC、メラミン、など各種プラスチックによる、優れた日用品のスタンダードを生み出した。一方で、プラスチックのインジェクション成型の金型のコストを省く製法も考えている。フルーツボール〈アダル〉〈アトッロ〉は、ドット状の孔を空けた2mm厚のPVCシートを加熱、真空成型によって生産した。ドット状の孔は、ボールの底に空気を送る働きをし、その機能がそのままデザインとなった。



2

蝶番／部品をどのように組み立てる？

Joint / How do the workers assemble parts?

部分が全体を変えることがある。
仕事に関わる全ての人が生き生きとプロジェクトと関われるように。

マーリが生み出したな画期的なディテールの一つに「蝶番」がある。例えば、卓上容器〈ジャヴァ〉は、部品の複雑な仕様をなくし、ごくシンプルな仕組みで、本体とフタ、2つのパーツのみで開閉できる独自の機能をデザインした名作だ。ほかにもマーリは、シンプルを極めるジョイントを生み出すことに情熱を傾けた。プロジェクトの背景には、マーリ独自のユートピアへ向かおうとする志向がある。

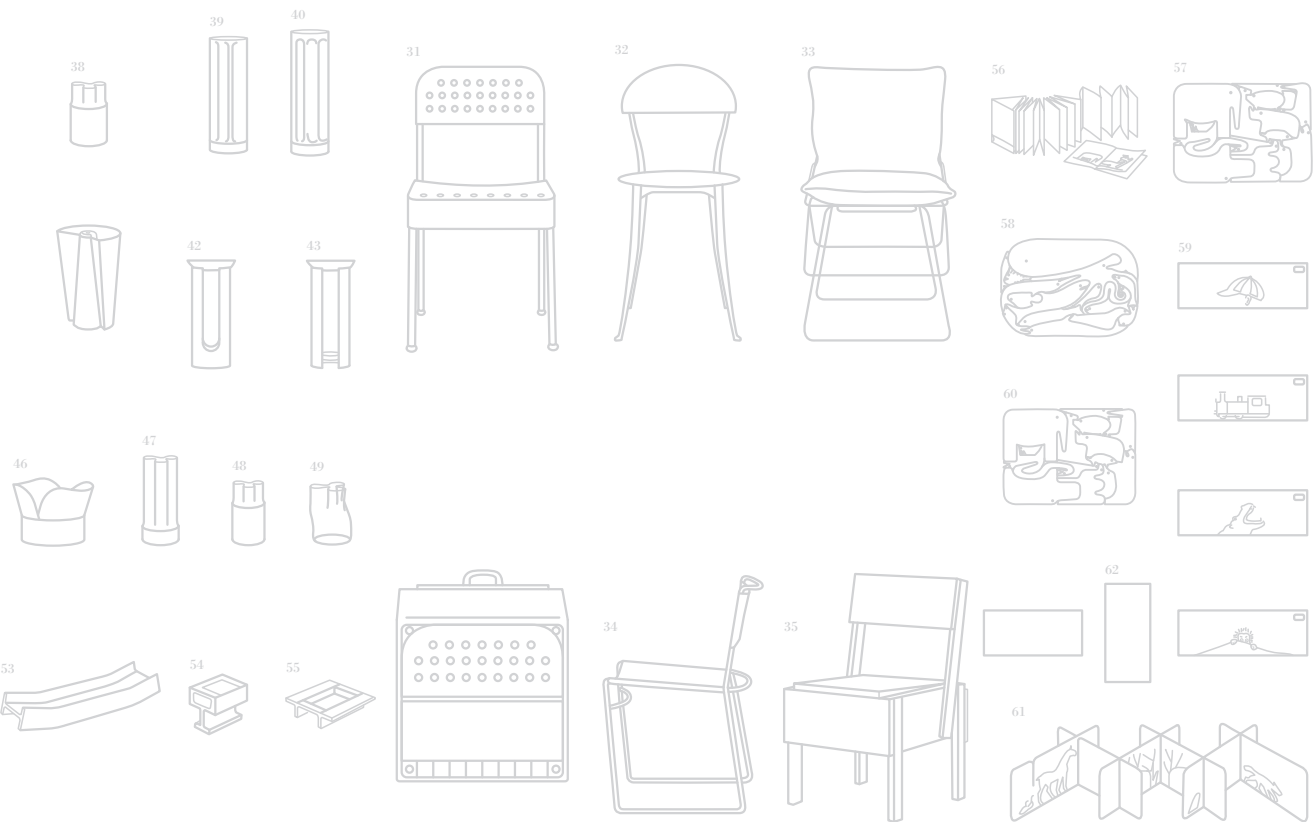
「これは、工場で働く人々が、ネジつけなど、繰り返しの流れ作業に追われる時間をなくすための蝶番だ」。そして続ける。「世界はエコロジーを語るようになったが、私の語るエコロジーは人間の尊厳だ！」。



プロジェクティスタ（デザイナー）は、ものづくりの全体的な流れと、そこに関わる人々の仕事を把握できる立場にいる。であれば、働く人々の手の動きや働き方を変えられるポテンシャルも持っているはずだ。

もし将来、AIがものづくりの先端を担うと同時に、非人間的な作業を代わる時代になったとしても、やはり世界には「仕事」をめぐる問題が別のかたちで残るだろう。解決すべきことはなくならない。

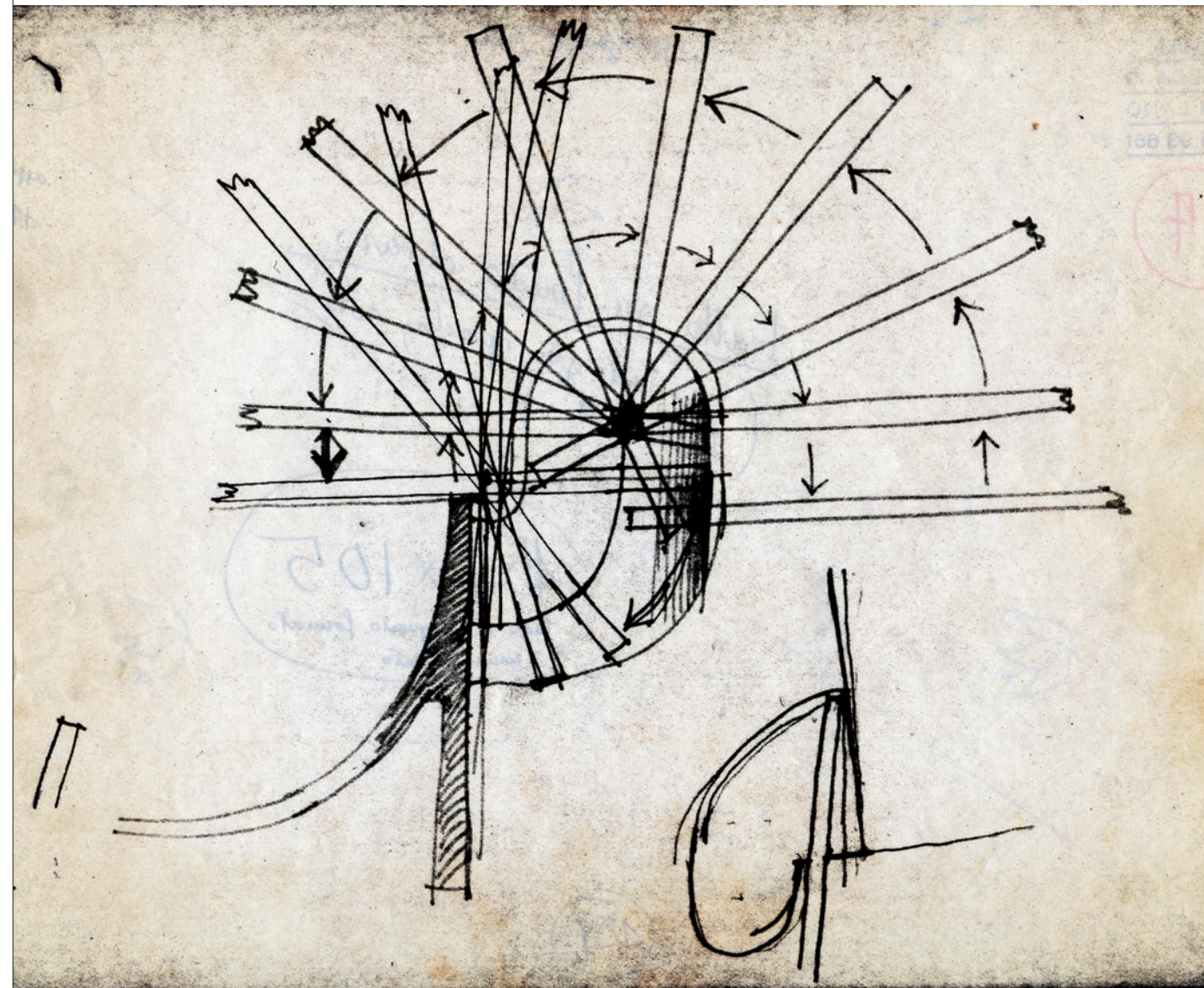
蝶番は、誰もが生き生きと仕事と関われるようにという理想を目指した、小さな変化のシンボルだ。さらに、あなたはどのように仕事と関わっているのだろうか？ という問いも突きつけてくる。



Java ジャヴァ

No.23 / Java ジャヴァ (1968) / Container tableware 卓上容器
Melamine メラミン樹脂 / ϕ 140mm $\times$ 60mm / Danese ダネーゼ

工場労働者が、蝶番のネジつけのような流れ作業に一日中追われることがないように、というマーリのユートピア的理想から生まれたプロジェクト。本体と完全にフラットなフタ、2つのパーツのみでフタの開閉を可能にした。ハンドル部が蝶番の機能を果たし、さらにフタを後ろへスライドさせると取り外せるよう考えられている。スプーンを差し入れたままフタを閉じられる仕様もある。(右) マーリのスタディスケッチ。





Citera チテラ

No.25 / Citera チテラ (1960) / Box 箱

Polished stainless steel, Rosewood ステンレススチール 鏡面仕上げ、ローズウッド
150mm × 150mm × 50mm / Danese ダネーゼ



Citera チテラ

No.26 / Citera チテラ (1960) / Box 箱

Polished stainless steel, Rosewood ステンレススチール 鏡面仕上げ、ローズウッド
300mm × 150mm × 50mm / Danese ダネーゼ



Antille アンティッレ

No.29 / Antille アンティッレ (1967) / Ice bucket 氷入れ

ABS resins ABS樹脂 / φ 185mm × 135mm / Danese ダネーゼ



Scatola Modellista スカトラモデリスタ

No.30 / Scatola Modellista スカトラモデリスタ (2002) / container コンテナ

Iron 鉄 / 400mm × 135mm × 60mm / Danese ダネーゼ



Griglia グリリア

No.24 / Griglia グリリア (1973) / Table ash tray 卓上灰皿

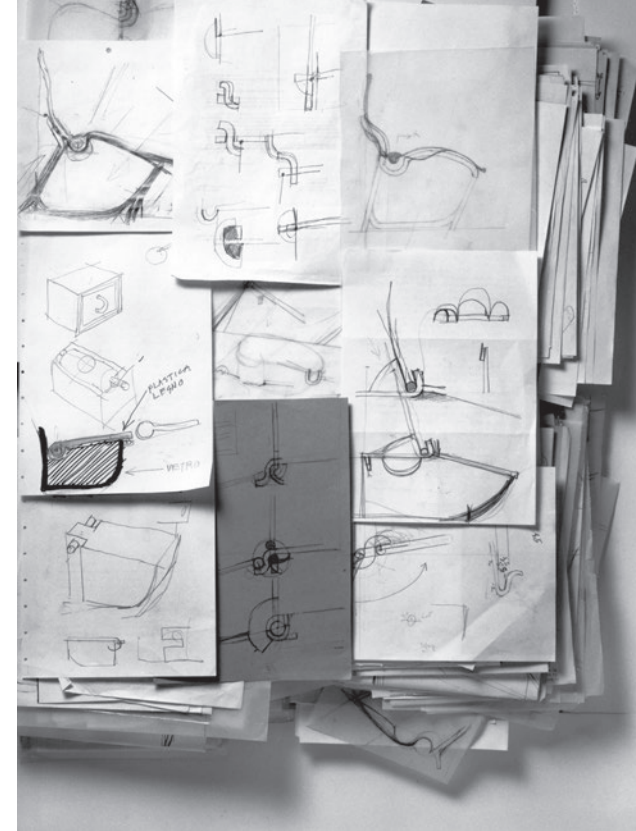
Aluminum, Melamine アルミニウム、メラミン樹脂
φ 116mm × 142mm × 145mm Danese ダネーゼ



Java ジャヴァ (初期タイプ)

No.22 / Java ジャヴァ (初期タイプ) (1965) / Container tableware 卓上容器

Melamine メラミン樹脂 / 75mm × 120mm / Danese ダネーゼ
No.22 / Java ジャヴァ (初期タイプ) (1965) / Container tableware 卓上容器
Melamine メラミン樹脂 / 140mm × 120mm / Danese ダネーゼ



Flores フローレス

No.28 / Flores フローレス (1992) / BOX ボックス

Thermoplastic polymer 熱可塑性樹脂 / 310mm × 155mm × 76mm
Danese ダネーゼ

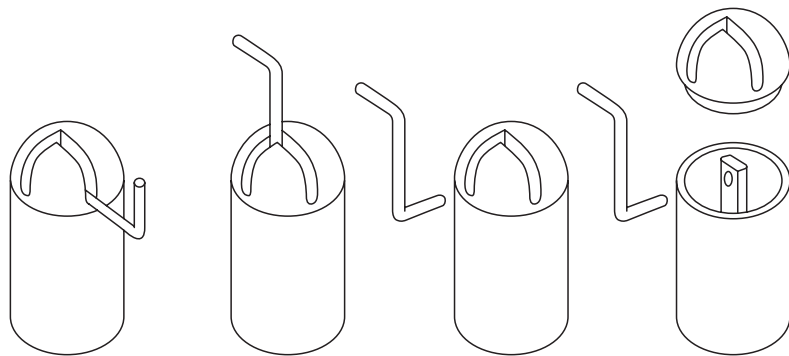


本体とフタに、綿密に組み込んだ蝶番を一体成型し、2つのパーツのみでフタの開閉ができるボックス。フタは閉じた状態で上部にスライドすると外れる仕組みになっている。コンパッソ・ドーロ賞受賞。(上) 多様な蝶番のプロジェクトのスケッチ

Faraglioni ファラリオニ

No.27 / Faraglioni ファラリオニ (1970) Pepper grinder 塩・胡椒挽き
Stainless steel, melamine ステンレス スチール、メラミン樹脂 / 90mm×55mm×55mm
Danese ダネーゼ

コショウ挽き（右）の金属のハンドルは、メラミン樹脂本体の切り込みに
ジョイントされ取り外しが可能な仕組みになっている。ソルト入れとセッ
トで販売された。下は解体図。



3

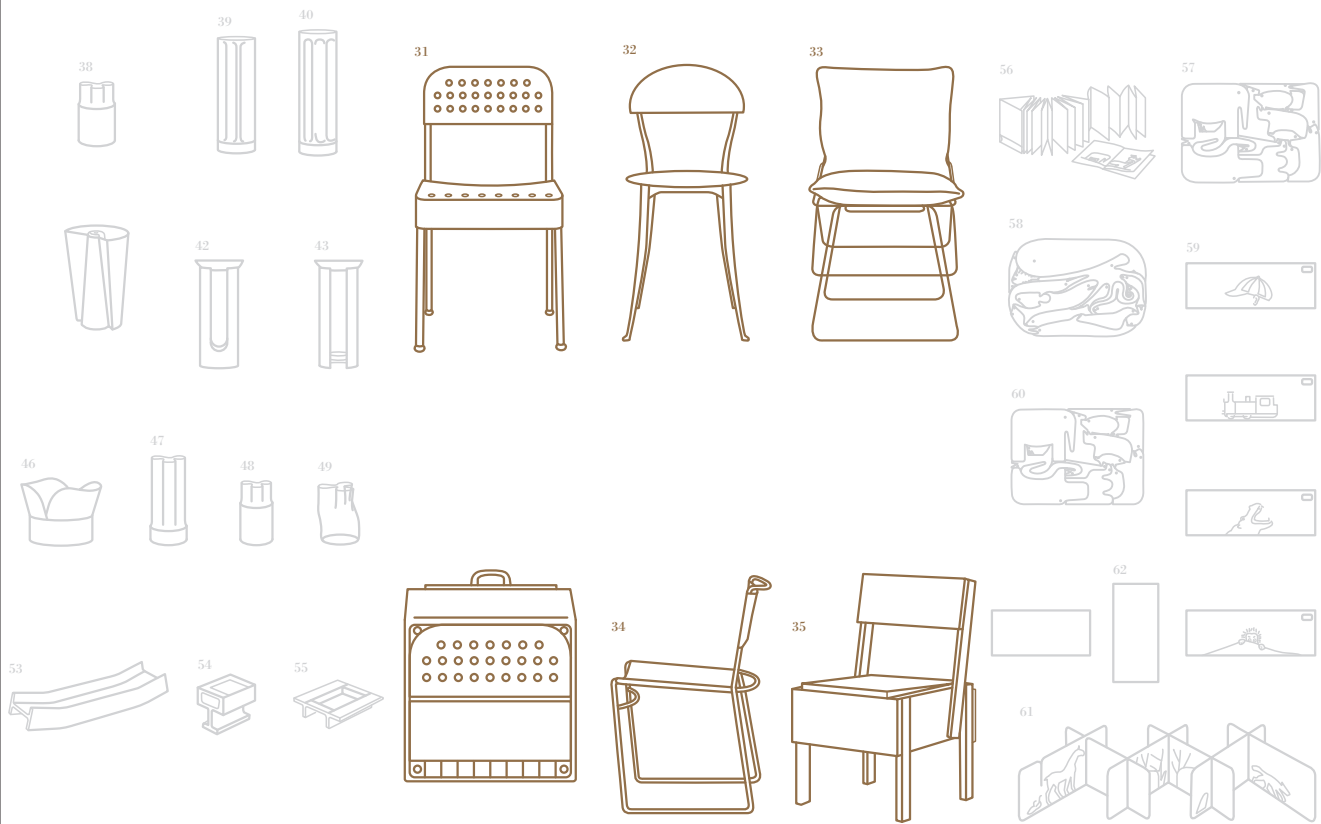
アーキタイプ（元型）／ 根を張って枝葉を伸ばす
Archetype / Branches and leaves that extend from the root

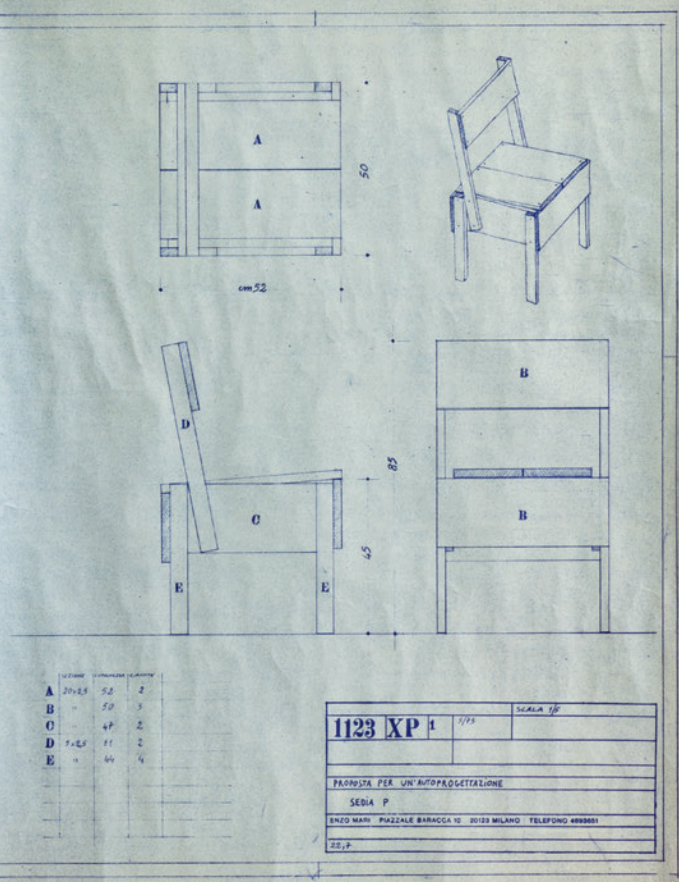
未来にもさらに新しい椅子を生み出すことはできる？
何万種もある椅子のなかのアーキタイプ。

世界では今日もどこかで「新しい」椅子がデザインされている。
しかしモダンデザインにおける「革新的で、真に新しいプロジェクトと呼べるものは歴史的に数脚しか存在しない」とマーリは語り、それらをアーキタイプ（元型）と呼んでいる。
一つ代表的な例を挙げるなら、19世紀にミヒャエル・トーネットが発明した曲木の椅子〈トーネット〉がある。曲木の技術によって量産を可能にし、ノックダウン式でコンパクトな輸送を可能にした。
マーリ自身は、1990年にバルセロナとミラノで開催した展覧会『Enzo Mari, il lavoro al centro』で、自身のアーキタイプとなる5脚の椅子を展示した。今回の展示では、うち4脚を、そして5脚目として〈autoprogettazione〉の椅子を加えることにした。
5脚目の椅子はメーカーのためにデザインされたものではない。



1974年にマーリは、大工仕事で組み立てた荒削りな仕上げのテーブル、ベッドなど19点の家具を並べ、その図面を希望者に無料で提供し自主制作を促すという、『アウトプロジェッタツィオーネの提案』展を開催している。5脚目の椅子はその一つだ。
この前代未聞の展覧会は当時「デザインへの侵害」と批判されたが、時代を経て理解者を増やし、手仕事やオープンソースへの理解のある、とくに若い年代の共感を得て発展し続けている。もはやこれも、アーキタイプの一つとなったのではないだろうか。
「今までと違うように見せるだけのデザインは必要ない！」とマーリは言う。
たしかに、いくつもの「新作」はもういない。実は、アーキタイプとその派生、良質なバリエーションを育てることに意味がある。木から健やかに枝葉が伸びるように成長するバリエーション。このデザインのツリーを知ることが今、求められている。





Autoprogettazione, Sedia P

No.35 / Autoprogettazione, Sedia P アウトプロジェッタツィオーネ、Chair P

Chair 椅子 / Wood 木材

(上) 青焼き図面



Box

ボックス

No.31 / Box ボックス (1971) / Chair 椅子

Polypropylene, steel ポリプロピレン、スチール / 430mm × 430mm × 825mm

Castelli カステリ

ポリプロピレンの座面と背もたれ、スチールの構造をコンパクトにパッケージ化して販売し、70年代、プラスチックの革新的なノックダウン式チェアと話題になった。左はそのパッケージ。初期型は背もたれがファブリックだった。

Sof Sof ソフソフ

No.33／Sof Sof ソフ ソフ (1971)／Chair 椅子

Electrowelded iron bar lings, polyurethane, fabric 電気溶接鉄筋、ポリウレタン、布
460mm×530mm×800mm／Zanotta ザノッタ

スチールロッドのスケルトンの構造体に、取り外し可能なクッションを
セットする、座り心地のよいダイニングチェア。



Delfina デルフィーナ

No.34／Delfina デルフィーナ (1974)／Chair 椅子

Iron rod, fabric スチールロッド、布／480mm×570mm×790mm
Driade ドリアテ

スチールロッドを電気溶接した構造体、ファスナーで取り外しが可能な
ファブリックの座面と背もたれ、美しくコンパクトなスタッキングシステ
ム。当時、革新をもたらした椅子として1979年コンパッソドーロ賞を受
賞した。〈Driade〉から〈Robots〉を経て、現在〈REXITE〉が生産。

4

美しさ／かたちの後ろに隠されているもの
Beauty / Thoughts hidden behind the form



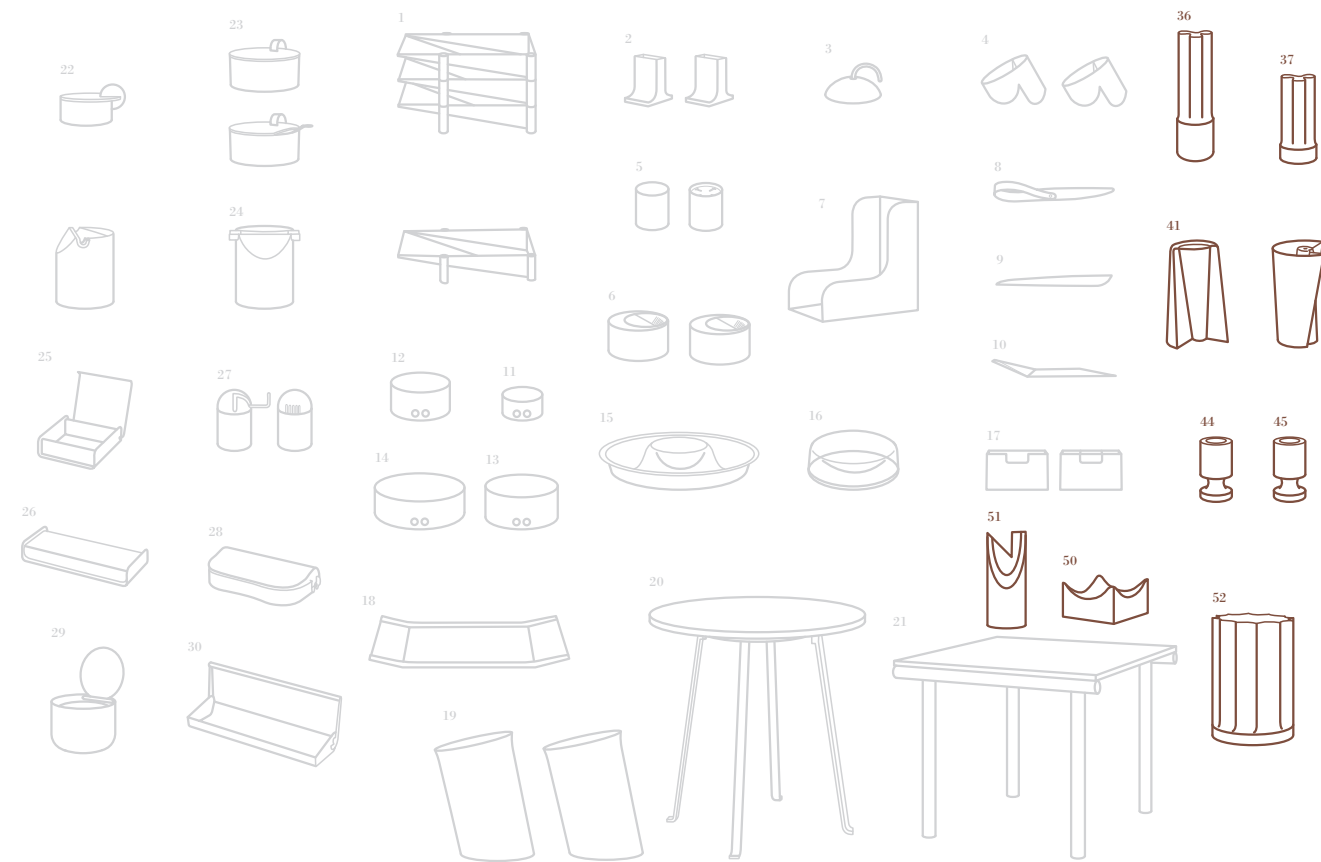
Tonietta トニエッタ

No.32／Tonietta トニエッタ (1980)／Chair 椅子
Aluminum, polyamide, leather アルミニウム、ポリアミド、革／380mm×480mm×820mm
Zanotta ザノッタ

登山用のハーケンに使われる、鋳造よりも強度があり軽量の鍛造アルミニウム技術を、家具の構造体に初めて導入しようという〈ザノッタ〉社オーナーの呼びかけで始まったプロジェクト。起業家のチャレンジ精神に応じ、マーリは極めてエッセンシャルな椅子をデザインした。結果的に構造体は鋳造で製造、背と座は合成樹脂に革張り。革張りのない仕様もある。

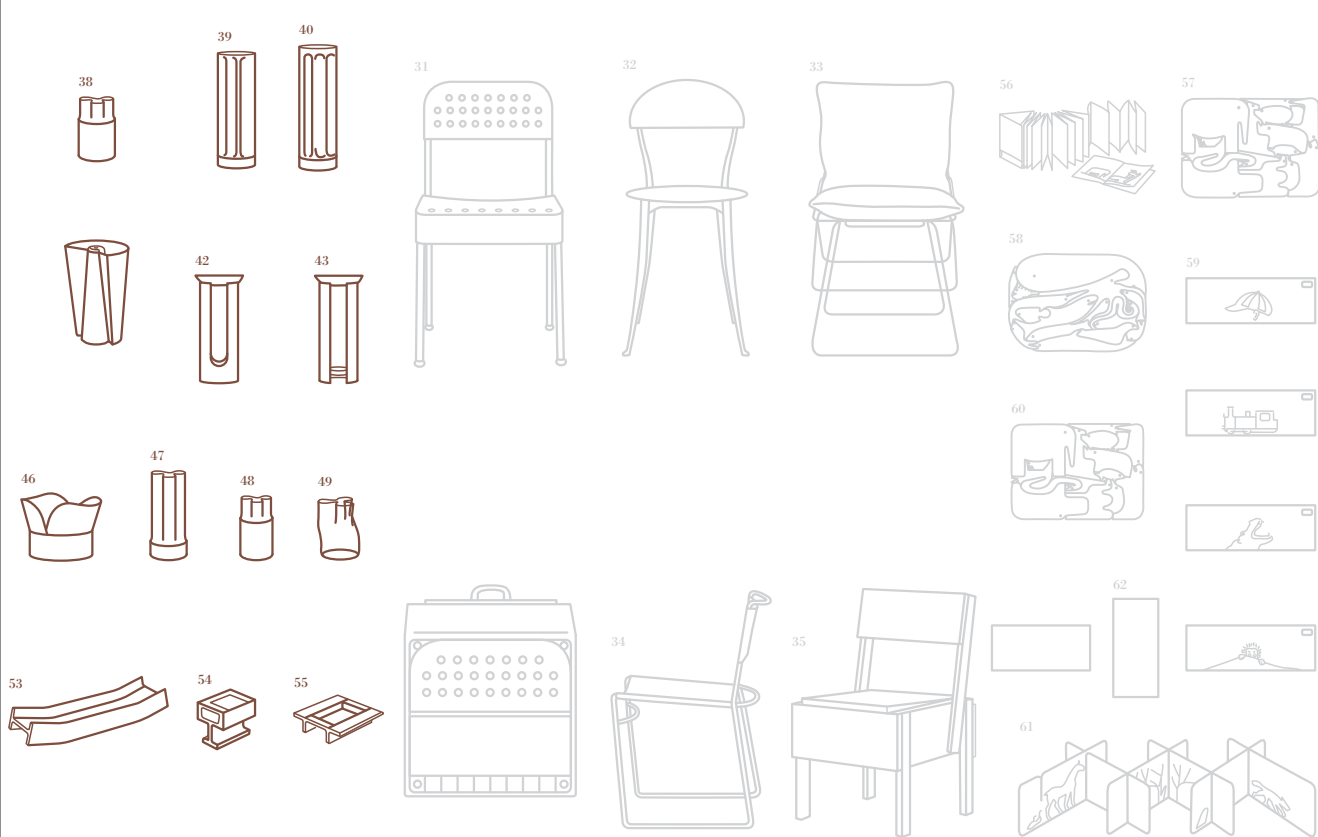
工業製品に宿る「美」。しかしその背景には幾多のプロセスがある。
かたちの向こうにある思考を読み取る。

マーリの作品には、ものの本質が現れた美しいかたちがある。
視覚芸術に取り組んでいた若いマーリは50年代に、ブルーノ・ムナーリに見出され、〈ダネーゼ〉(P.47参照)のデザインの仕事を始めた。〈ダネーゼ〉のために手がけた、数々の日用品にその造形美は見事に花開いている。
ところがマーリは「美」を基準に工業製品の出来を語られることを嫌う。美しさを前に、見る者がそこで思考停止しているのを見ると怒りを爆発させる。
例えば、本カテゴリーでは多くの花器を展示したが、ここには製造コストを下げる一つの実験があった。コストの流れは上から、〈ビジュアルヴェ〉*→〈パーゴ パーゴ〉→〈トリフォリオ〉〈バンブー〉となる。最終的にマテリアルは、PVCの工業用パイプ(マーリは「下水管」と呼ぶ)で、簡易金型による真空成形で仕上げた。さらに、成形後にどこをカットするかによって、かたちのバリエーションをもたらしたことも画期的だった。〈トリフォリオ〉についてはその後、成型型と手仕事を併せた素焼バージョンも試みた(この実験で生産コストを上げている)**。



工業用マテリアルや工作機械に、工場の職人の仕事をマッチングさせた、〈プトレッラ〉や〈パロス〉のシリーズもまた、工業デザインと手仕事を交差させた実験的作品だった。
しかし、かたちの後ろにあるこうした実験性を読み取ることは難しい。だからマーリは伝道師のようにプロジェクトをめぐる問題を私たちに語り続ける。語りながら怒りまで爆発させるために、聞き手に刻まれる記憶も深い。この伝道師としてのマーリのふるまいもまた優れたプロジェクトなのかもしれない。
そしてこうも思う。工業製品に際立った美をもたらしたからこそ、私たちはマーリのことに耳を傾けている。

* 1968年のプロトタイプのみが作られたが、コスト高で製品化されず。展示リスト外。
** コストの問題に取り組みつつも、一般的な日用品の価格にまでは落とせなかった。価格とクオリティの関係をどのように考えるかは今も残る課題だ。



Trifoglio トリフォリオ

No.38／Trifoglio トリフォリオ (1969)／Flower vase 花器
Vacuum-molded PVC extruded tube PVC真空成形管
φ125mm×190mm／Danese ダネーゼ
No.37／Trifoglio トリフォリオ (1969)／Flower vase 花器
Vacuum-molded PVC extruded tube PVC真空成形管
φ125mm×270mm／Danese ダネーゼ
No.36／Trifoglio トリフォリオ (1969)／Flower vase 花器
Vacuum-molded PVC extruded tube PVC真空成形管
φ125mm×420mm／Danese ダネーゼ



Trifoglio (biscuit)

トリフォリオ (陶素焼)

No.47／Trifoglio (biscuit) トリフォリオ (陶素焼) (1969)／Flower vase 花器
ungazed ceramic 陶器／φ120mm×265mm／Danese ダネーゼ



Trifoglio (biscuit)

トリフォリオ (陶素焼)

No.48／Trifoglio (biscuit) トリフォリオ (陶素焼) (1977)／Flower vase 花器
ungazed ceramic 陶器／φ120mm×185mm／Danese ダネーゼ



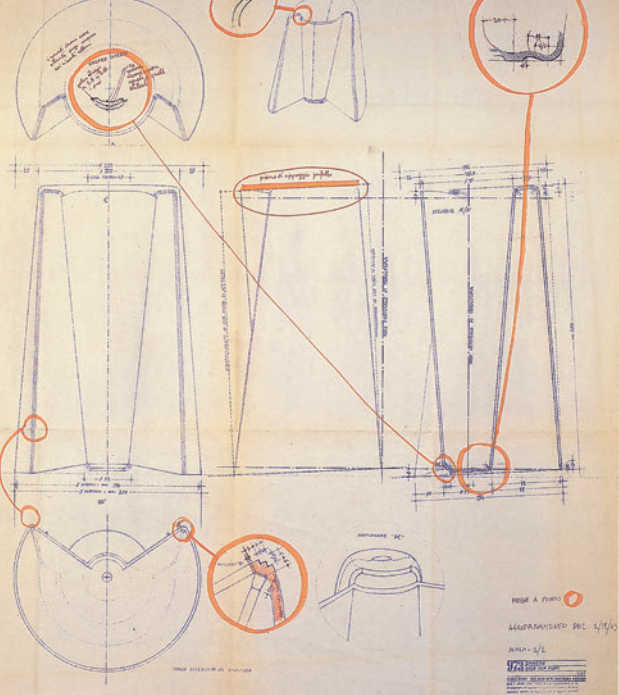
Bambu バンブー

No.39／Bambu バンブー (1969)／Flower vase 花器／Vacuum-molded
PVC extruded tube PVC真空成形管／φ125mm×370mm／Danese ダネーゼ
No.40／Bambu バンブー (1969)／Flower vase 花器／Vacuum-molded
PVC extruded tube PVC真空成形管／φ125mm×400mm／Danese ダネーゼ



Trinidad トリニダード

No.49／Trinidad トリニダード (1969)／Carafe Vase カラフ 花器
Blown glass 吹きガラス／φ115mm×170mm／Danese ダネーゼ



Pago-Pago パーゴパーゴ

No.41 / Pago-Pago パーゴパーゴ (1969) / Flower vase 花器
ABS樹脂 / 300mm × 198mm × 150mm / Danese ダネーゼ

上下両サイドで異なる2タイプの口径が一体となったユニークな花器。マーリはこれを一つの金型の射出成型できるようデザインした。マテリアルのABS樹脂には耐衝撃性があり、光沢のある美しい外観を持つため当時多くのプロダクトに使用された。(左) ディテールの指示が詳しく記された1969年の図面の青焼き。プロジェクトナンバー973とある。



Rocco ロッコ

No.52 / Rocco ロッコ (1969) / Flower vase 花器 / PVC
φ 250mm × 370mm / Danese ダネーゼ



Gorgona ゴルゴナ

No.46 / Gorgona ゴルゴナ (1961) / Flower-pot stand 鉢置き
Aluminum アルミニウム / φ 250mm × 250mm / Danese ダネーゼ



Camicia カミーチャ

No.43 / Camicia カミーチャ (1961) / Flower vase 花器
Glass, stainless steel ガラス、ステンレススチール / 280mm × 130mm × 130mm
Danese ダネーゼ

No.42 / Camicia カミーチャ (1961) / Flower vase 花器
Glass, aluminum ガラス、アルミニウム / 280mm × 130mm × 130mm
Danese ダネーゼ



Malta マルタ

No.44 / Malta マルタ (1960) / Pencil holder ペン立て
White marble (bianco Carrara) / φ 70mm × 130mm / Danese ダネーゼ
No.45 / Malta マルタ (1960) / Pencil holder ペン立て
Travertin / φ 70mm × 130mm / Danese ダネーゼ

Putrella プトレッラ

No.54／Putrella プトレッラ (1958)／Tray トレイ／Natural section iron 鉄

110mm × 100mm × 130mm ／Danese ダネーゼ

No.55／Putrella プトレッラ (1958)／Ash tray 灰皿／Natural section iron 鉄

200mm × 200mm × 50mm ／Danese ダネーゼ

No.53／Putrella プトレッラ (1958)／Tray トレイ／Natural section iron 鉄

490mm × 120mm × 90mm ／Danese ダネーゼ

建材のH鋼、T鋼、L鋼を職人が曲げ、切断し溶接するなどの加工によって制作した実験的プロジェクト。40のバリエーションを制作し、1959年に〈ダネーゼ〉ショールームで展覧会を開催した。特に左のトレイは、工業規格品にシンプルな美を宿らせた作品として、マーリは自身の代表作の一つに挙げるている。「プトレッラ」とはイタリア語で「梁」を意味する。



Paros modello L パロス モデル L

No.50／Paros Model L パロス モデル L (1964)／Centerpiece テーブルセンター
White marble (bianco Carrara) ／290mm×290mm×150mm ／Danese ダネーゼ（展示品はUpgroup アップグループ）

Paros modello AY パロス モデル AY

No.51／Paros Model AY パロス モデル AY (1964)／Flower vase 花器
White marble (bianco Carrara) ／φ 180mm×300mm ／Danese ダネーゼ（展示品はUpgroup アップグループ）

大理石の工作機械の機能を応用し、デザインに芸術性を導入した実験的プロジェクト。工作機械の設計、またその操作も職人技術の一つと考えるマーリは、本プロジェクトに限らず、新たな仕事に着手する際には、事前に工場や工作機械の種類を観察するのが常だった。



5

遊び／私たちのプロジェクトの原点
Play / The origin of our project

子どものあそびは自立したプロジェクトのはじまり。
その原点をめぐるデザインの試み。

マーリのごく初期のプロジェクトに子どものための玩具がある。なかでも16の動物がぴったりと長方形のボックスに納まる〈16アニマーリ〉は、子どもも大人も魅了されるパズルだ。

1950年代、20代で父となったマーリは、子どもと暮らし観察するなかで考察をした。子どもは生まれてから毎日、驚くべき速さで学習し、遊びながら自分で何かを発見し理解したとき大きな喜びを感じる。

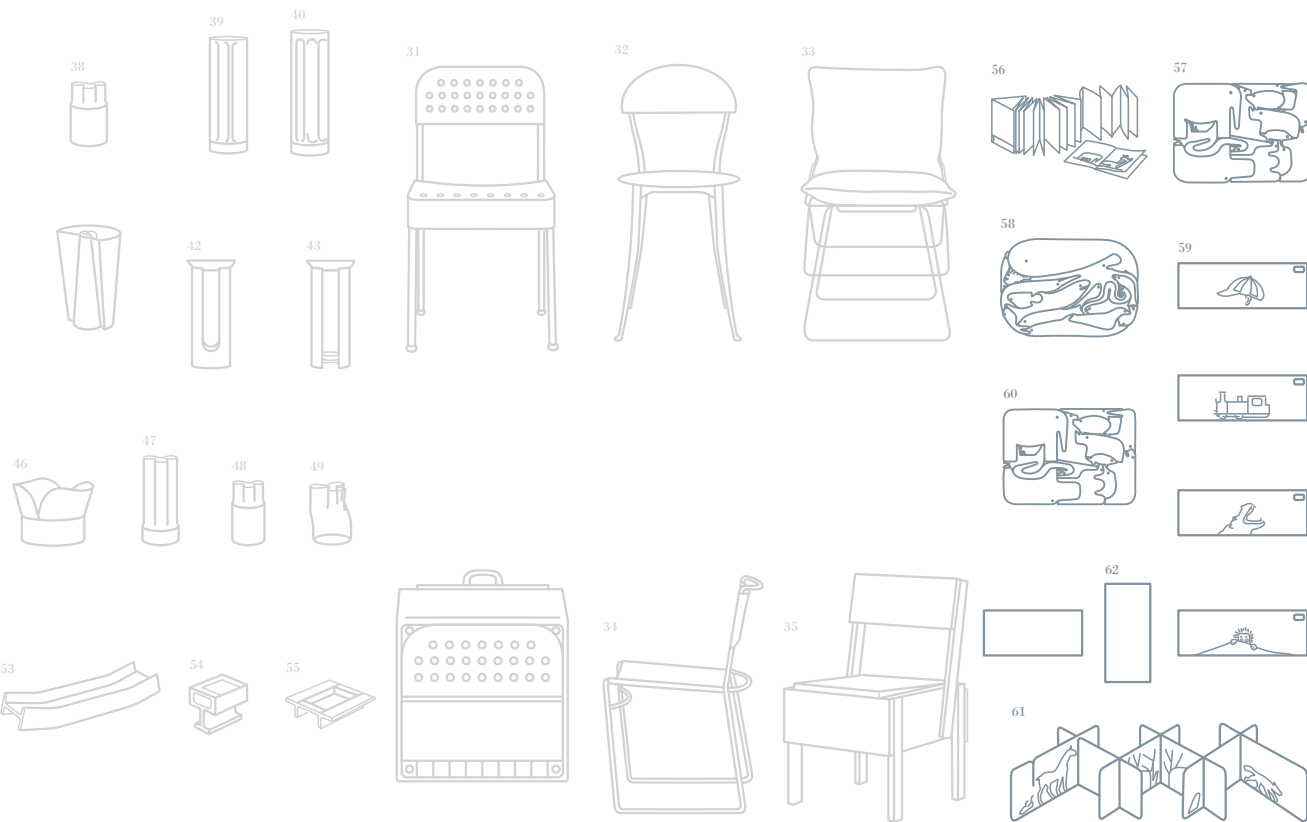
しかし、一般に売られている子どものおもちゃを見ると、この世界こそ消費のサイクルが早かった。

マーリは、絵本のイラスト一枚についても膨大なスタディを積んでかたちを見出している（当時は、イエラ・マーリとのコラボレーションによって、絵本やポスターを生み出している）。子どもの遊びにクオリティを届けたというだけでなく、マニュアルのない遊びによって、子どもの自立を促そうとした。「幼い子どもはモノを選べない。つまり教育すべきは親だ」ともいう。



自身の幼少については、「大変に貧しい家庭に生まれました。食料もモノも欠乏していた時代だった」と語っている。自ら遊びを見出し作り出し、そこから自分の頭で工夫し考える日常を送ったのが、子どものマーリだった。

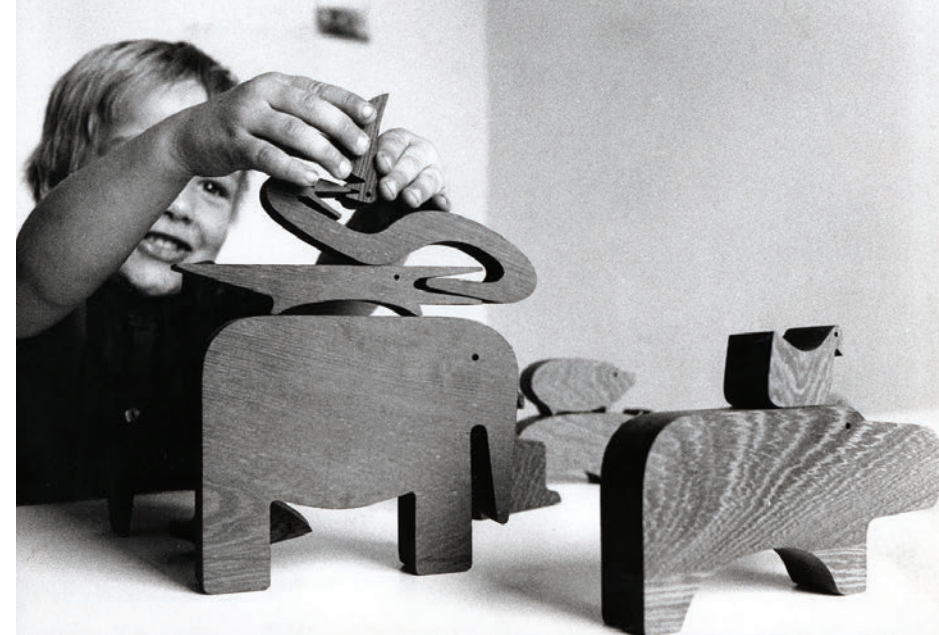
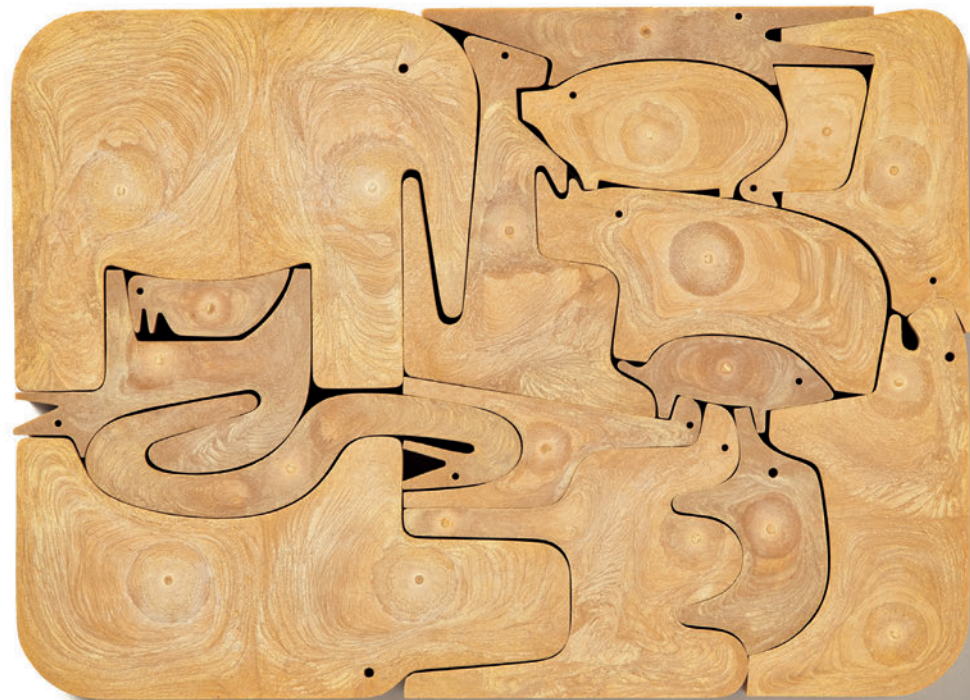
子どもは遊びながら何かを学んだ時、大きな喜びを獲得する。その喜びの感覚は大人になっても残り、プロジェクトに取り組む「パッション」の原点となる。人生でもっとも大切なことの一つは、このプロジェクトとパッションを持続する力だ、とマーリは教えてくれている。



16 Animali 16 アニマーリ

No.60 / 16 Animali 16 アニマーリ (1957) / Educational game 知育玩具
Polyurethane ポリウレタン / 250mm × 360mm × 40mm / Danese ダネーゼ

膨大なスタディスケッチを経て生まれた16匹の動物のパズル。動物はそれぞれ自立するので、子どもはパズル以外の遊びも生み出すことができる。後にマーリはこの動物たちをモチーフに、文字のない絵本「ラルタレーナ」(イタリア語でシーソーの意味)を出版した。



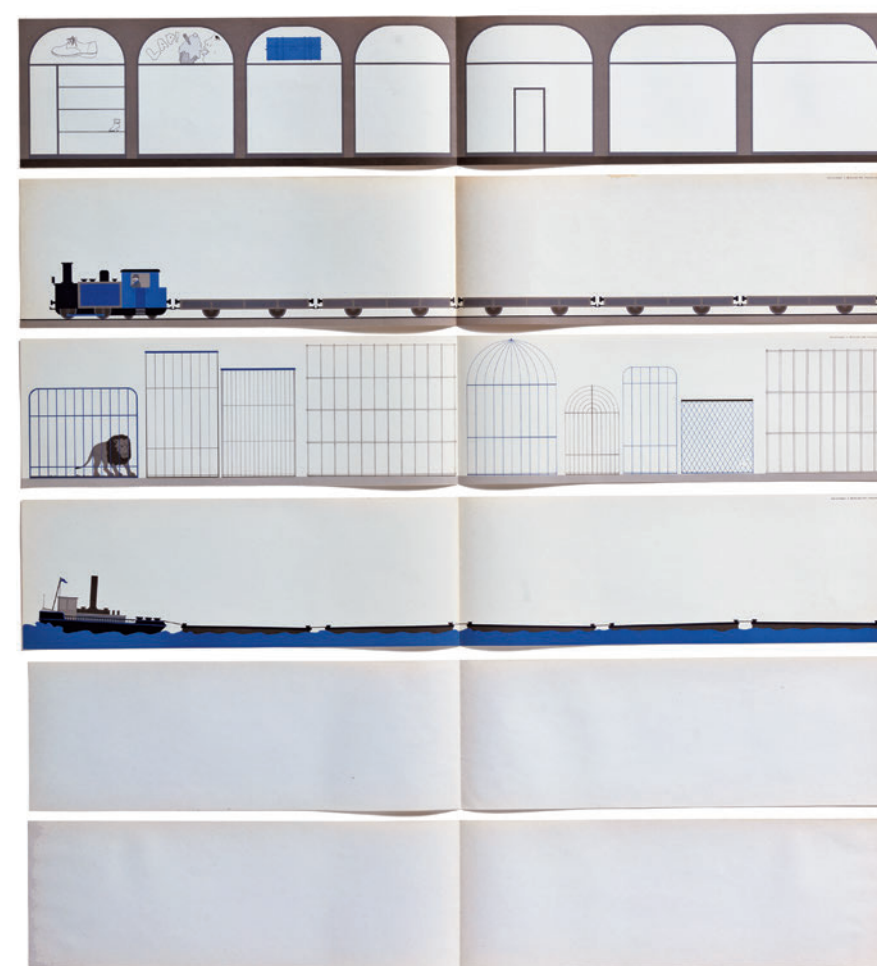
L'Altalena ラルタレーナ

No.56 / L'Altalena ラルタレーナ (1961) / Educational game 知育玩具
paper 紙 / 240mm × 180mm / Danese ダネーゼ



16 Pesci 16 ペーシ

No.58 / 16 Pesci 16 ペーシ (1973) / Educational game 知育玩具
Polyurethane ポリウレタン / 250mm × 360mm × 40mm / Danese ダネーゼ



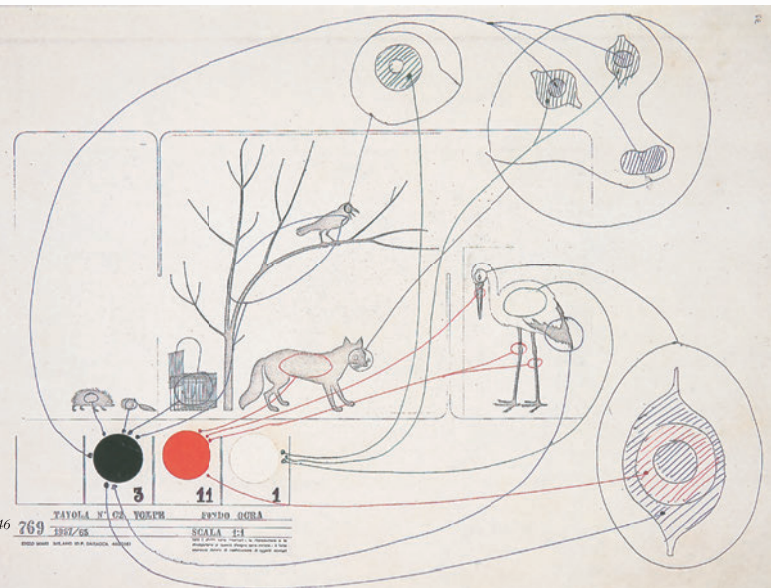
Carte da disegno 1-4 ドローイングペーパー 1-4

No.59 / Carte da disegno ドローイングペーパー 1-4 (1975) / Educational game 知育玩具
Paper 紙 / 490mm × 170mm × 5mm / Danese ダネーゼ

Il gioco delle favole おはなし作り遊び

No.61／Il gioco delle favole おはなし作り遊び (1957)／Educational game 知育玩具
PVC／460mm×230mm×10mm／Danese ダネーゼ
No.62／Il gioco delle favole おはなし作り遊び (1959)／Educational game 知育玩具
paper 紙／210mm×90mm×10mm／Danese ダネーゼ

マーリは57-65年にかけて、子どものアイコンとなる動物や植物のイラストの研究を弟エリオ・マーリと行った。「お話づくりゲーム」は、そのアイコンを描いたイラストカードを組み合わせて遊ぶ知育玩具。カードのコンビネーションによって予想もしなかった動物たちが出会い、予定調和的でないストーリーが生まれ想像力が膨らむ。その後、いくつかの動物のイラストは単体でポスターのシリーズ「Serie della natura」となった。
(下) カードのうちの一枚の色指示書。



マーリさんと僕。

思い起こせば僕が、エンツォ・マーリというお名前をきちんと認識したのは、彼のプロダクトを購入して、しばらく経ってからでした。

60年代に、ブルーノ・ムナーリの灰皿「クーボ」を通じて〈ダネーゼ〉の製品を知り、その後、ペーパーナイフ「アメランド」を手に入れたのが、マーリさん第一号です。「これよかね」と感じるかたちを追いかけてきたら、いつの間にか多くの作品を持っていました。以前、展覧会準備のために、倉庫を掘り起こしたところ100点以上が見つかり、このコレクションが『エンツォ・マーリ 100のプロジェクト』展（2008）として長崎県美術館で公開されたのです。

60-80年代の日本で〈ダネーゼ〉* 製品はまだ希少でしたし、取り扱っていた店や人を今もよく憶えています。日本で初めて〈ダネーゼ〉のショールームを名古屋に開いた澤山巖さん、六本木にあった「高會堂」**、「ハートアート」***、「青山さるん」**** など。また、アメリカ在住の友人を通じて、ニューヨークのMoMA ショップから買ってきてもらったこともありました。



マーリさんご本人とお会いしたのは、長崎県在住のデザイナー、城谷耕生くんが企画したワークショップを通じてだったと思います。

僕は、勝手に「マーリ」というお名前から女性だと思い込んでいたんですね。目の前に、ごつくて怖そうな男性が現れたときには本当に驚きました（笑）。

「かたち」でモノを評価する僕を、マーリさんが「馬鹿め！」と怒鳴ることもありました。でもそのあとで、背景にある思想を丁寧に教えてくださる。

低予算のワークショップでは、接待も特別扱いも断り、スタッフと一緒に合宿所に泊まられていましたね。食事の間も惜しんで職人たちとの授業に取り組む姿はまさに熱血漢という感じでした。

こうして多くのデザイナーのなかでもマーリさんは、僕のなかにことさら深い記憶を刻むマエストロとなったのです。

永井敬二

* Danese

今回の展示品の多くは〈ダネーゼ〉のプロダクトで構成されている。〈ダネーゼ〉は、ブルーノ・ダネーゼとジャクリーン・ヴォドツ夫妻によって1957年、ミラノに設立されたデザインプロダクトのブランド。ブルーノ・ムナーリ、エンツォ・マーリを中心に、アキッレ・カステリオーニ、アンジェロ・マンジャロッチーらが協働し、大量消費と一線を画した優れた工業デザインの数々と、職人の手仕事を導入した実験的な作品を生み出し、当時のデザイン界に多大な影響を与えた。ミラノの中心にあったダネーゼショップは惜しまれながら91年に幕を降ろしたが、2001年より新たなオーナーがその基本精神を受け継いでいる。日本の代理店は、澤山氏から始まり、変遷を経て2001年より、クワノトレーディングが担っている。

**

本田宗一郎の片腕、藤澤武夫が本田技研引退後に開いた、呉服、現代アートを扱う店

〈フジエテキスタイル〉のデザインショップ。現存せず

〈アクタス〉の前身である家具店

No.57

59年にリナシェンテ百貨店のために木製で製品化され、以後、ポリウレタンなど多様なマテリアルで生産された動物パズル〈16 アニマリー〉。かつてバリで目にしたウェンジ材のパズルに一目惚れした永井さんが、個人で材を仕入れ、糸鋸の第一人者小黒三郎さんに頼み込んで実現した貴重なコレクション。
※本品は〈ダネーゼ〉での生産が中止となっていた時期に、マーリ氏本人の許可をもらって個人使用として3点制作されました。

永井敬二コレクションについて

Gallery 1の展示品はインテリアデザイナー永井敬二氏が50年にわたり自分自身の目と手と足で世界中から集めた、戦後モダンデザインを主体とする膨大なコレクションの一部をお借りしています。永井氏は1948年、佐賀県唐津市生まれ。1982年に自身のインテリアデザインスタジオ〈ケイアンドデザインアソシエイツ〉を設立。国内外の文化交流に貢献し、デンマーク王国より「Furniture Prize」を受賞しました。Gallery 1では、永井氏のコレクションをお借りしながら展覧会を開催してまいります。

ATELIER MUJI GINZA

『変える。エンツォ・マーリと“栗の木プロジェクト”』展
—永井敬二コレクションより—

開催場所 | 無印良品 銀座 6F ATELIER MUJI GINZA Gallery 1 入場無料
会期 | 2019年4月4日(木)～7月21日(日) 開催時間 | 10:00～21:00

展覧会クレジット
主催 | 無印良品
企画協力 | 永井敬二 (インテリアデザイナー)
協力 | Studio Enzo Mari
会場構成 | 萬代基介建築設計事務所
グラフィックデザイン | 6D 木住野彰悟
施工 | HIGURE 17-15 cas
ゲストキュレーター | 田代かおる
写真 (展示物) | 知識たかし
写真 (ポートレート) | Ramak Fazel © Casa BRUTUS
本誌 P.3 カーサ ブルータス 2001年6月号「ITALIA」
本誌 P.11 カーサ ブルータス 特別編集『無印良品の秘密!』

冊子グラフィックデザイン | 須山悠里+島田耕希+小島沙織
Special thanks | 長崎県美術館、デザイン誌「AXIS」、近藤大輔、伊藤晴子、城谷耕生、サンチョルリ、オミタハラ、三木創平、藤谷鉄弥
企画・運営 | 株式会社良品計画 生活雑貨部 企画デザイン担当、無印良品 銀座 ATELIER MUJI GINZA

発行日 | 2019年4月1日
発行者 | 株式会社良品計画 生活雑貨部 企画デザイン担当

Keiji Nagai collection

The exhibits in Gallery 1 have been borrowed from a vast post-war modern design collection personally handpicked over the last 50 years by Keiji Nagai, interior designer, who devoted much time and effort to it. Nagai was born in Karatsu, Saga in 1948. Having founded his design studio “KEY & DESIGN ASSOCIATES” in 1982, he has contributed to many cultural exchanges inside and outside of Japan and was awarded the “Furniture prize” from Denmark. In Gallery 1, we will hold exhibitions borrowing a different part of the Nagai collection for each.

“To change. Enzo Mari and the “Chestnut Tree Project””
– Curated from the Keiji Nagai collection –

Venue | ATELIER MUJI GINZA Gallery 1 (6F, MUJI GINZA), Admission free
Date | Thursday, 4 April – Sunday, 21 July 2019 Opening times : 10:00 – 21:00

Organiser | MUJI
Planning collaborator | Keiji Nagai (Interior designer)
Cooperation | Studio Enzo Mari
Site design | Mandai Architects
Graphic design | Shogo Kishino (6D)
Site construction | HIGURE 17-15 cas
Guest curator | Kaoru Tashiro
Exhibit photography | Takashi Chishiki
Portrait | Ramak Fazel © Casa BRUTUS
P.3 from *Casa Brutus* June 2001 “ITALIA”
P.11 from *Casa Brutus* Special Edition “Secret of MUJI !?”

Booklet graphic design | Yuuri Suyama+Kouki Shimada+Saori Kojima
Special thanks | Nagasaki Prefectural Art Museum, Design Magazine “AXIS”, Daisuke Kondo, Haruko Ito, Kosei Shirotnani, Sang Chol Rhee, Omi Tahara, Sohei Miki, Tetsuya Fujitani
Planning and Management | Household Division / Household Design, Ryohin Keikaku Co., Ltd. and ATELIER MUJI GINZA (MUJI GINZA)

No / 作品名 / 年代 / 用途 / 素材 / サイズ / マニファクチュア
※マニファクチュア名は発表時のメーカー名に準じて表記しています。

参考文献
Arte Industriale Arcadia Edizioni 1988
Enzo Mari, il lavoro al centro Electa 1999
Enzo Mari L'Arte del Design 24 ore Motta Editore 2008

